ジャワに残した観測データ

宮 地 政 司*

1. ボスハ天文台のそのころ

細長いジャワ島の東半分の中心に，高原の街バンドン市がある．その郊外にある休火山の中腹，レンバン村の丘にボスハ天文台がそびえる．南緯度の熱帯だが海抜が1,300 m もあるので，暑さはさ程でなく，様々な花木が年中咲きほこり極楽の思いだった．燃えるようなブーゲンビリアが印象に残る．さきの太平洋戦争中，ジャワ島が軍政下に置かれてから，ここはレンバン天文台と呼ばれ，1年余りの間，緯度観測を始めとして各種の天文観測が行われた．

南天の珍らしい星座が輝き出すころ，一斉に各種観測が始まった．木村君は天頂儀を使って緯度を観測した．晴れれば3群の星対を頑張った．切田君は子午儀で時刻観測を受持ち，定刻には時報発信を行った．台長の私はときには両君を援けて観測を手伝った．口径65 cm の屈折望遠鏡は，従来の台長だったホーテ博士が使って連星観測に励んだ．この望遠鏡は三鷹にある東京天文台のものと同じころ製作された姉妹品だが，レンズはこの方が格段に優秀であった．博士は多くの連星観測データを出版（戦時中も）しているが，三鷹にはその観測はない．この他に，昼間は植前君の指揮する計算班が活躍した．

これが戦時下のレンバン天文台の活動風景である．小人数ながら，日本（6名）・オランダ（1名）・インドネシア（約10名）の人々が，楽しく夢中で仕事を続けた．終戦でそれがプツリととだえるのである．

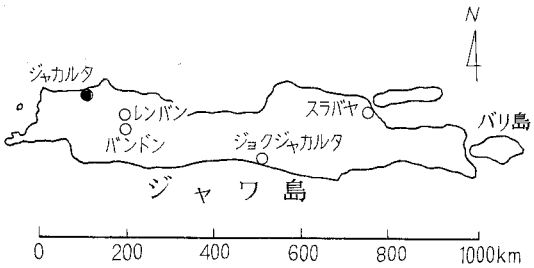
2. 木村栄先生の観測精神

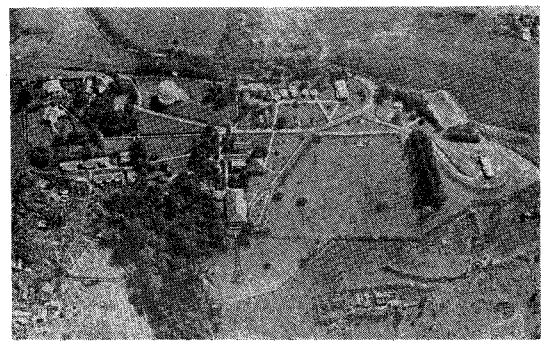
国運をかけた総力戦というのに，天文観測のためにわざわざジャワまで出かけたのは何故か？　実はジャワには，わが木村栄先生の勧告によってオランダ政府が設立したバタビア緯度観測所があった．日本軍がジャワを占領するや，先生の脳裏を去来したのはその消息であったろう――続けねばならない，よいデータを採らねばならないと．

ここで話を，前世紀末から今世紀始めの国際緯度観測事業の始まったころに引きもどそう．同一緯度圏の緯度観測所が7ケ所決り，日本がその仲間にはいった．だが，日本へはヨーロッパから観測者を派遣しようとの申出があった．屈辱的な申出である．勿論辞退したが，その重責は木村先生が負うことになる．ところが日本の観測結果は思わしくなく，半人前の取り扱いを受けた．ここで田中館大先生の監察となり，後の世まで実験物理の学生に語り継がれた場面となる．若い木村先生は機械の取り扱いも観測に対する精神面でも満点だった．自信をえた先生はZ項を発見し，同時にわが国の観測精度の優秀性を示した(1902)．このときの教訓は，観測が自動制御化された今日でも変わっていないと私は思う．

閑話休題．1922年，水沢は緯度観測の中央局となり，木村先生がその局長になられた．先生は早速，南半球と赤道帯とに観測所を新設し，極運動研究の強化を企図した．赤道帯にはジャワを選び，その実現方をオランダ政府に要請した．その仲介の労をとったのが，若い日のホーテ博士であった．その結果，ジャカルタ市外チリリタン村に緯度観測所が新設され，蘭印測量局の手で運営された(1931)．

このような因縁があるので，1942年4月ジャワ島に日本軍が進駐するや，先生の懸念がつのったのも無理はない．これも広義の観測精神の発露である．私がチリリタン村を訪ねたのは 1943 年の年末だったが，側板のはがれた観測所が，至近まで迫った飛行場の傍らにあり，室内には何もなかった．天頂儀類はすべて取りはずされ，ジャカルタの気象部に保管されていた．後で判明したことだが，ここでの観測は 1931 年より 1940 年4月まで





*Masasi MIYADI: Missing data of observations in Java.

あり，そのデータは公表されている．

3. レンバン天文台の人人

いまから考えると，あの時代に木村先生の願望が見事に実現したことは感嘆の他はない．いかに多くの人々のお蔭によるものか，その恩恵を想う．緯度観測所長川崎俊一博士は過労で倒れ，そのあとを引き継いだ池田徹郎博士は請願書を陸軍に提出する．この間，文部省測地学委員会委員松山基範先生，陸地測量部技師武藤勝彦博士などの仲介があったときく．こうしてジャワに緯度観測班派遣が決定した（1943 年夏まえ）．

緯度観測所から木村忠敬・切田正実・植前繁美の3氏が選ばれ，また事務職として京都大学理学部から川合弥五郎・西川敏夫の2氏が選ばれた．この5人は軍属として，危険な航海を続け，1943年の年末にジャワに到着した．木村栄先生は観測班の出発まえの9月に永眠された．せめて出発を祝福して頂きたかったと派遣隊員は残念がっていた．

ジャワでの緯度観測の責任者として，当時前線にいた私が選ばれた．私は 1941 年7月召集され，航空兵少尉として，インドシナを転戦し，マレーを経てスマトラ，最後に東部ニューギニアにいた．1943年8月初め，私は転属を命ぜられ3ケ月かかってジャワに着いた．当時ジャワは物資豊かで前線への補給基地になっていた．地獄から天国へ来たような違和感を覚えた．あとで知ったことだが，私の原隊は彼の地で全滅した．私だけがこの転属の結果，命ながらえたことになる．

ジャワに着いてから，始めて私は自分の任務を知らされた．チリリタンの緯度観測を再開することと，それにレンバン天文台の保全とであった．だが軍政監部では天文観測でもあるまいと，私を当分科学技術室の庶務班長に任命した．必要な研究を配分推進する機関だから，軍部としては天文より重要視したのであろう．内地から観測隊が到着しても，数ケ月は科学技術室を兼務させられた．

すでに述べたように，チリリタンの観測所は荒廃し，場所的にも観測には不適なので，緯度観測をレンバン天文台へ移転し，ここの保全とを併せて管理運営することに決した．実はレンバン天文台は 1933 年の万国経度観測事業に参加しているので，子午儀やリーフラー時計もあり，報時発信も実施されるので，私としては経緯度を同時に観測することに興味があった．

前台長のホーテ博士はキャンプに収容されていたが，管理を理由に天文台に帰えされ，連星観測を続けていた．われわれとしては，できるだけこの老人を大事にした．天文台がわれわれによって活動を始めると，インドネシアの旧職員も集まってきた．ジョノ，マホメドなど優秀な助手もいた．

観測は緯度・時刻・連星の3種，それに時報の送受，回教暦・恒星高度方位表などの軍からの要望にも答えて協力した．

4. 終戦と観測データの行くえ

1945年8月終戦の放送があった．まず考えたことは，観測データの保全と機械施設の原状復帰であった．早速天頂儀や子午儀は解体し収納した．観測野帳や星対原薄は小箱に収納し，由来を英文でかいて図書室に納めた．立つ鳥は跡を濁さずで，総てが元のままの姿で返還できるよう留意した．他方，万一のときを考えて，有力な村人たちとの交際を平素以上にふかめた．バンドンにある日本軍部隊からは，警備のために分隊が天文台に派遣された．

そんなある日，突然竹やりで武装した村人たちが大勢で天文台を取り囲み，警備隊を武装解除し，バンドンへ追放した．現地人との戦闘は禁じられていたという．われわれは天文台構内に軟禁状態に置かれた．10日もたったころ，ある星の降るような晩だった．現地の義勇軍が私たちを2台の自動車に分乗させ，バンドンの日本軍兵舎に送り届けてくれた．車の囲りに義勇兵が鈴なりにぶら下り，12 km のレンバン街道をバンドンまで下った．途中何度か歩哨に止められたが，「独立万歳」の合言葉で通り抜けた．バンドンの兵営の門前で，涙ながら握手を交わして彼らにお礼をのべた．翌朝，全島的な暴動が起って，多くの邦人が殺傷された．それがインドネシア独立戦争の幕開けであった．戦闘はもっぱら連合軍（英豪蘭）と独立軍の間で行われたが，日本人には両軍とも好意的だった．

こんな騒動のため，バンドンの日本軍が武装を解いてジャカルタへ移されたのは，年も改まった1月のことであった．それまではレンバンは無事だったとの情報をえている．暫くの捕虜生活をしたのち，1946年6月までに観測隊は全員無事復員した．

レンバンに残された観測データはどうなったか？いつかは返えして下されると虫のよいことを考えていた．緯度観測所長の池田博士は日本占領米軍を通して，レンバン天文台に照会したが，発見されないとの返事だった．数年後 IAU 総会のときだったかと思うが，「ボスハ天文台は日本軍によって破壊掠奪された」との話を耳にして，ひどく驚いた．独立戦争の戦場になったためか．少なくとも日本軍がバンドンを去った 1946 年1月までは無事だったはずである．そんな言い訳を懸命にしたのであったが，心ない人の手で亡失したらしいことは確からしい．それにしても私は自分があの非常時に平常のままの方法で格納した不用意さを悔んだ．切田博士の説によ

れば，チリリタンとレンバンとでは気象条件がひどく違うとのこと，だからたとえ1ケ年でもレンバンの観測資料があれば，興味ある比較研究ができたろうにと残念でならない．

5. ホーテ博士のこと

ホーテ博士は当時すでに白髪の老人で杖をついていたが，観測室にはいると腰はしゃんと伸びて人が変ったようだった．観測の鬼といいたい人物である．最初に会ったころ「オランダは今日まで貴国に感謝されこそすれ，恨まれるようなことはなにひとつしていないのに」と訴えられて閉口した．

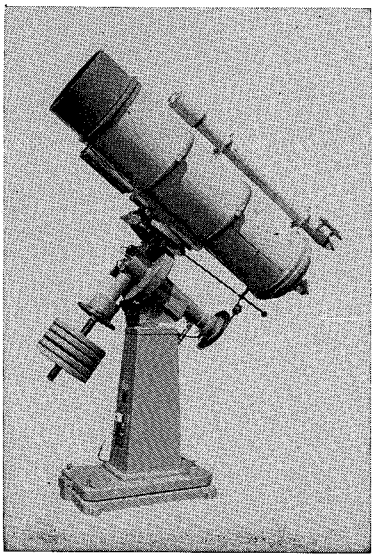
ある夕方，彼が飛んで来て，いつか話したグリーン・フラッシュが現れたと知らせて下された，神秘な光をみてから，私は構内の片隅の丘の上に案内された．そこには墓石や石柱が転んでいた．『私はこの天文台を終焉の地と定めて，これらを用意していた．もしものときには，ここに葬ってもらいたい』と彼はいった．

終戦の放送をきいたとき，私は彼を呼んで，天文台のあとあとのこと，とくに観測データについて頼んだ．彼はすでに日本の降伏を知っていて，主客転倒になった私を大いに慰さめてくれた．私はせん別を贈って別れたが，翌日彼はわざわざ彼の孫娘とその母親とを連れてお別れに来た．

復員したあとも，ジャワでは独立戦争が続いていたので気にしていたところ，数年後にホーテ博士より手紙をもらった．『元気でストラスブルグ天文台で働いている．齢はとったが，ミタカの65 cm赤道儀を使わして下されるならば，連星観測をしたい』とかいてあった．国内全般が苦しい生活をしていた時代で，どうすることもできなかった．1966年版のIAU年鑑から彼の名は消えた．

序に，オランダの大学者ド・ジッター先生のご子息がジャワにいて，行え不明になったことについて書こう．大先生の未亡人からの依頼とかで，その消息をきいてきた．多分キャンプではないかと，ホーテにも調べてもらった．結局は，悪名高いタイ・ビルマ国境の鉄道工事に連行されたらしいとのこと．もはや，どうすることもできなかった．

私は戦争の渦中から，天文仲間の友情や厚意によって救われた．だが私自身は天文仲間に対し何ができたか．観測データは失われた，海外の仲間も助けられなかった．戦争は悲しいものだ．ただ個人は無力でも協力と友情で援け合うことの必要性を知った．ざんげを含めてこの記録を残こす．



天体望遠鏡
ドーム，製作

西村製の天体望遠鏡

40 cm 反射望遠鏡の納入先

No. 1	富山市立天文台	
No. 2	仙台市立天文台	
No. 3	東京大学	
No. 4	ハーバート大学	(USA)
No. 5	ハーバート大学	(USA)
No. 6	台北天文台	(TAIWAN)
No. 7	北イリノイズ大学	(USA)
No. 8	サン・ヂェゴ大学	(USA)
No. 9	聖アンドリウス大学	(ENGLAND)
No. 10	新潟大学高田分校	
No. 11	ソウル大学	(KOREA)
No. 12	愛知教育大学(刈谷)	

606 京都市左京区吉田二本松町 27

株式会社 西村製作所

TEL. (075) 771—1570
691—9580